



定本與謝野晶子全集 第十五卷

講談社

昭和五十五年五月十日 第一刷發行

定價 二千九百圓

著者 與謝野晶子

發行者 野間省一

發行所 株式會社講談社

郵便番號 東京都文京區音羽二丁三
電話 東京(03) 222-1222(大代表)

組版 株式會社熊谷印刷

印刷所 多田印刷株式會社

製本所 大製株式會社

落丁本・亂丁本はお取替えいたします
©與謝野光 一九八〇年



第十五卷 評論 感想集二

0395-261250-2253 (0) (文事) Printed in Japan

目 次

人及び女として

自序	三
幸福な現在の女	七
女子と讀書	一〇
時勢と青年婦人	一四
私達婦人の要求	一六
日本人の體質と精力	一八
日本人の食物	二三
故瀬沼夏葉女史	二五
地方人の生活	二七
東京に憧れる若き婦人達に	三三

貞操に就て

處女と性慾

婦人と政治運動

夏が來た

創新の生活

欲求のまま

婦人記者の社交俱樂部

製作の前後

「誠」と「眞實」

入澤常子氏

模倣と虚榮の意義

婦人界の一現象

小學生の掃除問題と體罰問題

婦人を侮辱する矯風運動

三

四

五

六

七

八

九

一〇

一一

一二

一三

一四

一五

一六

一七

あれや、これや	七三
青年の自殺	八〇
學制改革案に就て	八三
祭の日	八五
姑と嫁に就て	八六
颶風	八九
文部大臣高田早苗氏	一〇〇
小學教育の改造	一〇一
小學に於ける課業の淘汰	一〇四
女教師の未能力	一〇七
姑と嫁に就て（再び）	一一〇
紫式部の事ども	一一七
紫式部と其時代	一二〇
貞操は道徳以上に尊貴である	一二七
愛の生活	一三〇

急進婦人の近状	一四
婦人の告白	一五
軽躁な婦人	一六
婦人と裁判沙汰	一七
非常識な矯風運動	一八
平安朝の戀	一九
一九一五年の回顧	二〇
妻の意義	二一
男に對して	二二
現代人らしく	二三
夏	二四
婦人改造と高等教育	二五
髪	二六
母性偏重を排す	二七
先進老婦人の饒舌	二八

川上愛子さんの遺書を読みて	三〇
婦人の飛躍	三八
既成宗教より脱せよ	三〇
間違つた婦人の趣味	三三
婦人自ら反省せよ	三六
私の現状	三三
小賣商の暴利	三三
思想の断片	三四
日本婦人の頹廢的體質	三四
安價生活よりも高價生活	三四七
小學教育の本末關係	三四九
我等何を求むるか	三五
小序	三一
私自身の現狀	三三

男女の本質的平等觀………

自重を知らない母………

婦人の團體運動………

迷信と骨董………

有產階級の努力すべき道………

警察力を善用せよ………

婦人理學士………

故文學博士上田敏先生………

婦人の墮落する最大原因………

無痛安産を經驗して………

女の先生………

流行の色彩………

女の服裝………

英國人………

開封郵便………

二五

二〇

二三

二四

二七

二九

二一

二五

二九

二七

二六

二八

二九

三〇

三〇

三〇

女の物質的奢侈	三一
子供の氣分	三三
女子と理性	三七
地方の小學教育に伴ふ一つの弊	三九
新案服裝展覽會を觀て	三二
私の戀愛觀	三五
二つの反省	三八
歌の理解	一〇〇
スマス氏の自由飛行	一一一
婦人の無耻	一二一
無力また無力	一二四
産後の疲勞	一二五
ロダン翁に逢つた日	一二六
女子と自由	一二七
生活の二つの様式	一二八

二人の女の短い對話

隣の家

動的な子供

親へか、良人へか

詩を愛せよ

歐洲婦人と日本婦人

男女の本質的平等觀（再び）

露西亞踊を觀て

日本婦人の營養不良

自他の過失に就て

戰後を想像して

故有島安子夫人其他

教育家の非常識

私娼の撲滅に就て

結婚の新様式

三七

三六

三五

三四

三三

三二

三一

三〇

二九

二八

二七

二六

二五

二四

平塚明子様	四七
光の病氣	四八
仕立物屋の賃銀	四五
親鸞上人の傳記	四六
紫式部の考證	四六
苦笑	四〇
一つの安心	四二
新秋	三三
私の今の實感	三三
個人と國家	三三
廉價な生	三三
婦人の獨立	三六
第二の強者	三七
自由と寛容	三九
「與ふ」と云ふ語	四〇

個人個人の時	三二
私達の貧乏	三一
婦人と容貌	三〇
中條百合子さん	二九
公平な立論	二八
何よりも婦人の實力	二七
布畦の蟻	二六
苦勞を経ない發言	二五
個性の確かさ	二四
文明に素朴は無い	二三
奇妙な二種の斷定	二二
美術院展覽會の日本畫	二一
改造されない家庭	二〇
人を陥れる試験問題	一九
淋しい時と賑かな時	一八

萬物は推移する

二人の子

政變を重ねよ

「女らしく」に就て問ふ

アウギュストの「さびしい」

聰明と徳望

「眞宗全史」を讀みて

離婚に就て

筆を執りつつ

時の觀念

本然と努力

離婚に就て（再び）

地方女子の都會景慕

識者の意見を取捨せよ

婦人と臺所

婦人と性欲……

家庭の創造……

個性の屈辱……

貞操に就ての反省……

婦人の言語……

人生最高の理想……

青山菊榮氏に答ふ……

「倫理學の根本問題」を讀みて……

教育制度の根本的改革……

識者達の方便説……

兩様の心理……

地方から來た一人の女……

岩本榮之助氏の自殺……

優能婦人を標準とせよ……

婦人の讀書力を高めよ……

四九

四八

四七

四六

四五

四五

四三

四二

四一

四〇

三九

三八

三七

三六

三五

三四

栄華物語の作者の一人

改革的熱情と異常の時

日本婦人の弱點

神近市子さんのこと

大樹勞日
文部省元代二號

富士見の活版印刷

小學教育と富豪

少年教育と諸興行物

解題

木編
侯集
修部

装 帧 アド・ファイブ

人及び女として